

# 経営比較分析表

大阪府 阪南市

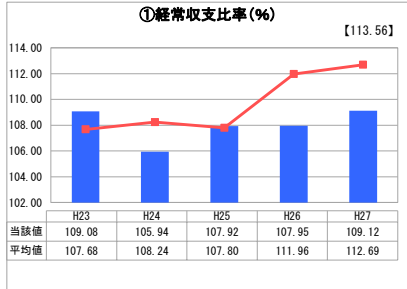
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	72.97	99.94	2,894

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
56,475	36.17	1,561.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
56,255	19.25	2,922.34

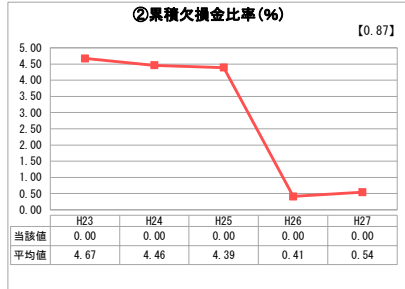
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

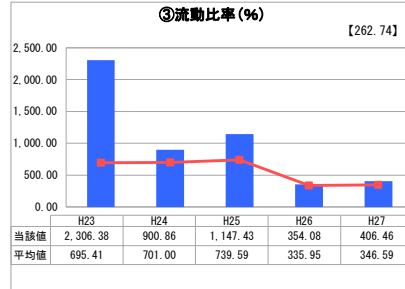
## 1. 経営の健全性・効率性



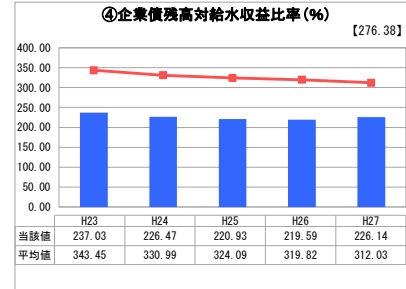
「経常損益」



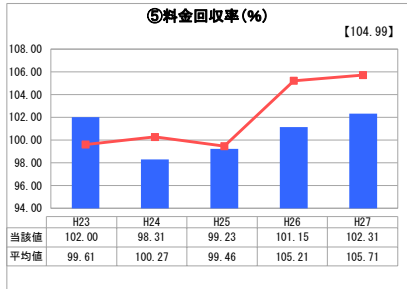
「累積欠損」



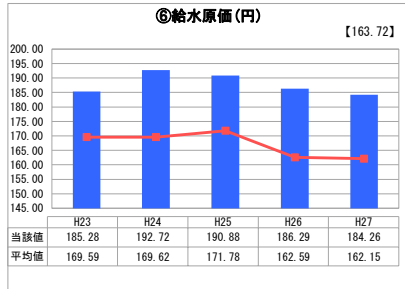
「支払能力」



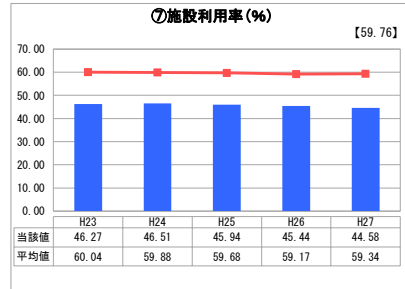
「債務残高」



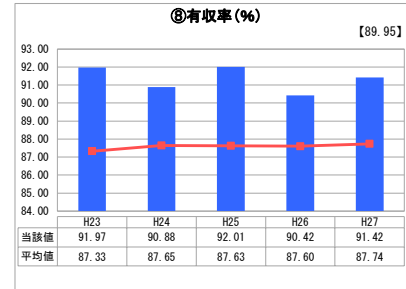
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

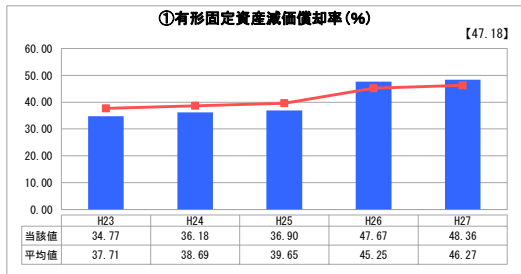


「施設の効率性」

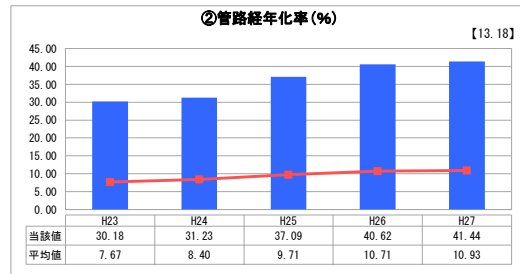


「供給した配水量の効率性」

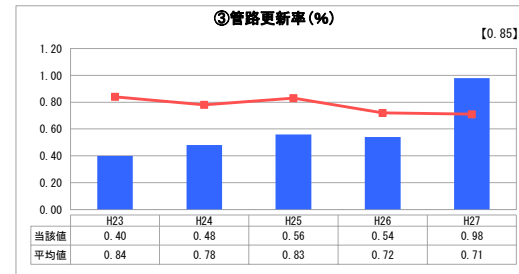
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本市水道は、平地部が少なく山地や丘陵地が多数ある地形により、配水池等施設を多く設置する必要があるため、固定費に占める維持管理費の割合が高くなっている。そのため、経常収支比率は100%を超えているものの、平均値を下回っているほか、給水原価が平均値を上回ることに影響しており、料金回収率が平均値を下回る要因の一つとなっている。

また、人口が減少傾向にあるため、人口密度が平均値と比較すると非常に低くなっている。そのため、施設の利用率が悪く、数値は平均値を下回っている。

一方、支払利息については、既償債の借換えや繰上げ償還により、減少傾向にある。また、計画的に起債を行っているため、企業債残高は、平均値と比較すると良好な数値となっている。有収率については、漏水調査等を推進し、有収率が上がるように努力しているため、平均値よりも上回っている。

また、流動比率は、平均値より突出している年度もあるが、ほぼ平均値になっており、支払能力は比較的に安定している。

以上のことから、単年度収支は、黒字であり、累積欠損金は、発生していない。

### 2. 老朽化の状況について

管路の経年化の状況を示す数値では、平均値を上回っており、法定耐用年数を経過した管路が多数存在している。

毎年度計画的に老朽化した施設や管路の更新等を実施しているため、管路更新率は、平均値を下回っているものの上昇傾向にある。なお、H27年度においては、前年度と比較して約1.5倍の老朽管の更新工事を行ったため平均値を上回った。

類似団体や全国平均値と比較してみても老朽化が進んでいる状況にある。

### 全体総括

本市の水需要は、給水人口の減少、核家族化及び需要者の節水意識の定着等により、年々減少し続けている。

施設や管路の老朽化が進行しているため、平成25年度策定の水道ビジョンや更新計画に基づき、計画的な設備投資や更なる健全化に努める。更には、平成28年度策定予定の経営戦略に基づいて、将来にわたり健全な経営を続けていくための経営改善の実施や投資計画等を進めていく必要がある。

また、水道企業団との統合についてはメリット、デメリットを検討している段階である。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の実績を基に類似団体平均値を算出しています。